

## 寄附金による 「重要文化財 絹本着色安東円惠像」(当館蔵)の修理

谷口 耕生(学芸部保存修理指導室長)

当館には仏像や仏画をはじめとする多数の文化財が保管されていますが、その多くは過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。こ

れらの文化財をさらに未来へと継承するために、当館では絵画・彫刻・書跡・工芸・考古の収蔵品(館蔵品・寄託品)について毎年計画的に修理を実施しています。

また、館内に設置されている文化財保存修理所では、専門の修理技術者によって国宝・重要文化財級の貴重な品々に対する修理が日々行われており、当館の収蔵品がここで修理されることも少なくありません。

ただし、こうした文化財修理は、優れた技術と多くの時間、そして何よりも多大な経費を必要とするものです。そこで当館では、文化財修理費用のご支援をいただくため館内各所に募金箱を設置し、五〇〇円以上の寄附をいただいた方全員に、なら仏像館での鑑賞の手引きとなる冊子『仏像を観る』【挿図1】を呈する



挿図1

る取り組みを始めました。本事業にはすでに多くのの方々よりご支援をいただいております、昨年度

にはこの寄附金による文化財修理の第一号として、当館所蔵の「重要文化財 絹本着色安東円惠像」【挿図2】の修理が実施される運びとなりました。

安東円惠(一二八五〜一三四三)は、鎌倉幕府の有力武将で、晩年は禅僧として上野国長楽寺に住した人物です。本画像はまさに鎌倉武士の出家姿にふさわしい、凛然たる容貌を誇る肖像画の名品として知られています。上部には、元徳元年(一三二九)に元から来朝した臨済宗楊岐派松源派の高僧・明極楚俊による賛文が記され、その墨跡としても極めて貴重な遺品です。

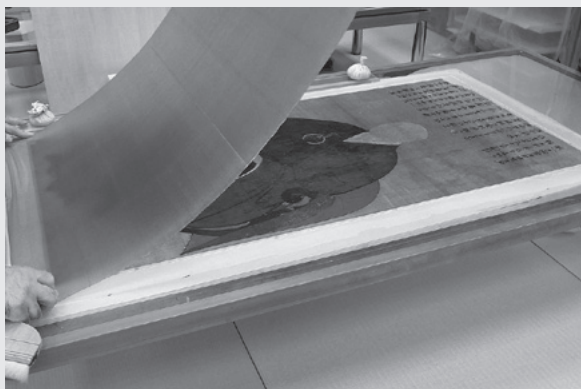
このように当館の重要な収蔵品として、これまでも肖像画をテーマとする展覧会などを中心にしたびたび展示されてきましたが、肖像画にとって最も重要な面相(めんそう)部を中心に、経年の劣化による絵絹の剥落や水ぶくれ状態の浮きが生じ、新たな欠失に至る可能性が極めて高



挿図2

い危険な状態にありました。そこで昨年四月より一年の工程で行われた修理では、まず表具を解体し、劣化した古い裏打紙をすべて除去し、絵絹の欠損部分には新調した絵絹を補い、さらに新調した裏打紙による補強を施して【挿図3】掛幅装に仕立て、三月に無事完成致しました。そして、本年十二月の「新たに修理された文化財」展で、面目を新たにした姿を皆様に披露させていただきます。

当館では今後も募金箱にお寄せいただいたご支援のもとに、文化財修理を継続的に実施していく予定であり、こうした文化財修理に関する当館の取り組みについて、「新たに修理された文化財」展や文化財保存修理所の特別公開など、様々な機会を通じて広く紹介していきたいと考えております。



挿図3